

会議名称	平成26年度第2回平塚市スポーツ推進審議会
日時	平成26年(2014年)10月6日(月) 14時から15時55分まで
会場	平塚球場 会議室
委員数	15名
出席者 委員	14名 陶山正明、萩裕美子、田中國義、杉山鎮夫、首藤幸子、浜田妙子、八田力、石塚重子、菊地武良、藪田稔、市川正雄、大曾根俊久、細野文夫、中尾圭作 《欠席》歌門俊雄
出席者 事務局	5名 後藤社会教育部長、高橋スポーツ課長、五島課長代理、市川主管、植手主任

1 陶山会長あいさつ

2 後藤社会教育部長あいさつ

【事務局】

平塚市スポーツ推進審議会規則第4条に規定する定足数は委員定数15名に対し、本日の出席者14名で過半数を超えているため、会議が成立することを事務局から報告する。

3 議題

(1) 平塚市スポーツ推進計画について

【会長】

スポーツ推進計画の市民への周知の進捗状況はどうか。

【事務局】

スポーツ推進計画書は公民館等に配布は済んでいる。個別に説明会等は行っていない。

【会長】

できる限り、スポーツ推進計画の周知を行っていただきたい。

ア 新規事業の進捗状況について

- 資料1に基づき、手話ダンスによる健康づくり事業及び小中学校運動場、体育館個人利用促進事業、スポーツボランティア登録制度、スポーツ指導者登録制度、平塚市

スポーツポータルサイトについて、事務局から説明。

【事務局】

手話ダンスによる健康づくり事業ですが、HAND SIGN というグループに御協力をいただき、公演とワークショップを実施している。公演は平成26年7月1日に太洋中学校、7月6日に湘南ひらつか七夕まつりの見附台ステージで行った。ワークショップは、平成26年10月2日現在、第2クールを実施しているところで、延べ人数540人が参加している。また、幅広い年齢層が参加している。今後予定している第3クールを含めて、参加した方が手話ダンス等の運動をするきっかけとしてもらいたい。また、ワークショップに参加して慣れた方が手話ダンスを教える場も設けたい。

今後の予定は、平成26年10月12日に市民体育レクリエーション港地区大会、11月8日にHAND SIGN OSC 湘南シティ LIVEにて受講者による発表、12月からワークショップ第3クール、また、平成27年3月29日にひらつか市民スポーツフェスティバルでの公演を実施したいと考えている。

小中学校運動場、体育館個人利用促進事業ですが、金目中学校、みずほ小学校の体育館で行っている。利用日は金目中学校が第2・4月曜日、みずほ小学校が第3曜日。実績として、平成26年9月22日現在、延べ参加人数343人、実施回数17回である。利用者数は金目中学校で1回あたり24人程度、みずほ小学校が12人程度で、休日の方が利用者が少ない傾向にあると考えられる。

次年度以降の課題として、市内全域に拡大するには団体の人手が足りないことや、学生団体としての特質上、人の流動性が高いことから、まずは現状維持しながら、団体の基盤強化が必要である。また、他市の取組と比較検討しながらより良いものにしていきたい。

【会長】

小中学校運動場、体育館個人利用促進事業だが、東海大学地域スポーツクラブの管理者が、初心者に対する助言、けがの応急処置、用具の管理等を行うとあるが、委託料はその都度支払うのか。

【事務局】

先に負担金として支払っている。

【会長】

金目中学校とみずほ小学校のみの開放となっているが、順次開放施設を増やすのか。

【事務局】

まずは、東海大学から近くの学校から実施している。

【委員】

東海大学地域スポーツクラブを選定した理由は何か。

【事務局】

市民提案型協働事業であり、東海大学地域スポーツクラブから提案されたものである。

【事務局】

補足ですが、高浜高校でも手話ダンスの公演を開催した。

【事務局】

スポーツボランティア登録制度及びスポーツ指導者登録制度について、規約等の作成、登録協力依頼、登録方法、名簿登載、活用方法、状況把握、活用事例、課題等について、資料のとおり説明。

【会長】

スポーツ指導者の資格の有無をどこがどのように把握をするのか。また、スポーツ課は調整とあるが、指導者の資格等諸問題に関する責任の所在はどこか。

【委員】

基本的には指導者と希望者の問題ではないか。

【委員】

有事の場合の責任問題を考えると、資格の有無も含めて、スポーツ指導者として登録可能条件を決めるのは非常に難しい。

【委員】

資格を持った指導者を希望者が要望するのであれば、要望に沿った指導者をスポーツ課が橋渡しをする。指導者の派遣については、基本的には希望者と指導者の協議になると考える。

【会長】

スポーツ指導者登録は資格の有無は関係ないのか。

【社会教育部長】

学校の部活動の指導者としての活動も考えていることなど、幅広く活用していきたいと考えていることもあり、資格等の登録条件をあまり厳しくしたくはない。希望者と指導者の協議を含めて、要望に沿えば、指導者を橋渡しできるように、少しずつ、幅広く活用していきたい。

【副会長】

希望者と指導者のお互いの協議の元、進めていけば良いと考える。また、スポーツボランティア登録制度及びスポーツ指導者登録制度を取り入れている先進市の成功事例も参考にするのも良い。

【委員】

競技スポーツに限らず、ニュースポーツの指導者のことも考慮すると、やはり、お互いの協議により、決定する方が良いと考える。

また、確認だが、東海大学スポーツクラブはボランティアサークルなのか。

【副会長】

東海大学の他のボランティアサークルとは別である。

【会長】

名簿登載の際に、スポーツ課で審査をして搭載を決定することもあり、相互協議とはいえ、諸問題発生した場合は、スポーツ課も対応せざるを得ないという懸念もある。今後、この制度について進捗状況を確認していきたい。

【事務局】

ひらつかスポーツナビについてだが、お知らせ情報、施設情報、イベント情報、団体情報が主要機能になっている。団体情報に関しては、スポーツ5団体等のスポーツ活動団体の中から、26年度は94団体、27年度は200団体を団体情報として紹介する予定でいる。画面構成に関しては、写真をメインに使用して、インパクトのあるものにしたと考えている。団体情報の特徴は、各団体が団体情報ページの内容を更新できるという点にある。

各団体に対しては説明会を既に開催しており、事業の概要を周知している。

事業の進捗状況を今後、御説明していきたい。

【社会教育部長】

せっかく作成しても、見てもらえないサイトでは意味がないので、様々な情報を載せてアクセス数を増やして、バナー広告等も検討し、このサイトを維持していきたいと考える。

【副会長】

運営はどこが行うのか。

【事務局】

協働事業団体である湘南ふじさわシニアネットが行う。

【副会長】

3年計画の協働事業の後は、引き続き湘南ふじさわシニアネットに運営を行ってもらえるのか。

【事務局】

行っていただく予定である。

【副会長】

重要なのは情報収集である。サイトを更新するためには情報が必要である。サイトの作成はできたが、情報収集の仕組みが欠落している場合があるので、27年度は情報収集方法もよく考える必要がある。また、団体情報ページの更新作業も得意な方ばかりではないので、情報更新がされず、サイトが意図したものにならないこともあるので、仕組みをしっかりとっておく必要がある。

【事務局】

更新作業の動画マニュアルを予定している。更新が進むように操作環境も整えていきたい。

【事務局】

湘南ふじさわシニアネットによる有償の更新業務も検討している。

【委員】

団体情報ページの立上げは有償か。

【事務局】

立上げは無償で更新は依頼をすれば、有償である。

【委員】

ニュース性を持たせた情報更新となると、団体負担も大きいのではないか。湘南ふじさわシニアネットと現段階で、情報更新についての詳細を確認しておいた方が良い。

【会長】

スポーツ推進計画の中の新規事業に関して、少しずつ事業が進んでいると感じる。引き続きよろしくお願ひしたい。

【社会教育部長】

スポーツ推進計画は基本計画のみの作成で、実施計画は作成していない。実施計画は毎年、スポーツ推進審議会の委員の方の意見を聴き、進行管理を行いながら作成していきたいと考えている。

(2) 平成27年度スポーツ課予算について

ア 補助金交付について

- 資料2に基づき、スポーツ団体への補助金交付状況について説明。

【事務局】

スポーツ団体への補助金交付状況について、団体補助、大会補助、事業補助の3つの分類がある。平塚市体育協会、平塚市体育振興連絡協議会、平塚レクリエーション連盟が団体補助の対象である。大会補助は、平塚市で行われる全国大会規模の大会が補助対象である。事業補助はベルマーレスポーツクラブの指導者派遣事業、市内巡回事業・教室実施事業、スポーツ体験実施事業、交流大会実施事業に対して補助を行っている。平成27年度も平成26年度と同額の予算確保を予定している。

また、スポーツ基本法に従い、スポーツ推進審議会に意見を聴くものである。

【会長】

補助金交付の進捗状況はいかがか。

【事務局】

団体補助、大会補助に関しては、既に交付している。事業補助に関しては現在事業を実施しているところである。

イ 女性大会等の現状と今後の対応について

- 資料3に基づき、女性大会等の現状と今後の対応について説明。

【事務局】

女性大会等の現状と今後の対応について、新規事業も考えていかなければならない中で、バドミントン、卓球、テニス、バレーボールの4つの女性大会とナイターソフトボール大会をそれぞれの種目協会等に大会の継続を依頼し、教育委員会主催事業としては廃止としたい。

【委員】

女性バレーボール大会について、平塚ママさんバレーボール協会が大会運営はほぼ行っている。冷暖房費用も協会が負担している。ただ、会場使用料はスポーツ課が負担しているので、来年度も予算の確保をお願いしたい。他の種目も同じだと考えている。

廃止の理由は予算の問題なのか。

【事務局】

予算ではない。教育委員会主催としての目的は達成したと考えている。

【社会教育部長】

継続して行っている事業に関しては特に成果が求められる。

【委員】

現在、様々なスポーツがあるので、一つのスポーツに占める人数は年々減少していくのはやむを得ない。協会としても参加人数の確保を模索しているので、事業を継続して来年度の判断としていただきたい。

【会長】

大会の継続を依頼するということだが、会場使用料等も協会等の負担ということか。

【事務局】

はい。

【委員】

大会開始当初は、行政主体のスポーツ推進であったが、現在では受益者負担という考えもあるので、協会等への大会継続依頼も仕方ないと考える。また、予算の問題もあるので、スポーツ推進審議会で結論を出すべきと考える。

【委員】

初期の目的を達成したとは思わない。協会等への大会継続依頼の対象がほぼ女性大会というのも理解し難い。

【委員】

別の大会も多くあり、確かに参加者は減少している。また、現在では初心者はほとんどいないが、それが初期の目的を達成と捉えるのは違うと考える。また、教育委員会主催の大会ということに意義がある。

【会長】

教育委員会主催の女性バレーボール大会はこの大会のみか。

【事務局】

はい。

【委員】

男女平等社会といいながら、女性に特化した大会が存在するのはどうなのか。歴史があるもので、ここで教育委員会主催ではなくなるということに抵抗もあるのは当然だが、大会開始当初とは違う時代背景も考慮して、幅広く検討する必要がある。

【事務局】

スポーツ課としても、まず、単純に回数が多いから主催をはずすというわけではない。ただ、新規事業も考え、継続事業の成果が求められる中ででの主催の継続は難しいので、大会継続を依頼したいと考えている。

【会長】

様々な状況を考えると、スポーツ課の意向もやむを得ないと思う。

【委員】

限られた予算の中で新規事業を実施して、多くの方にスポーツを楽しんでもらう機会を与えることも必要と考える。

【委員】

予算確保をした上で、大会継続を協会等に依頼して、主体的に運営を行ってもらうのはいかがか。実際にはスポーツ課の職員の人件費等の負担もある。

【委員】

運営は既に主体的に行っている。

【会長】

会場使用料等の予算を確保して、大会のスポーツ課の職員の配置等の負担軽減を行う、という大会継続の方法は可能か。

【事務局】

そのような考えはない。

【会長】

スポーツ課としては、予算の確保は難しいということなので、全てにおいて大会継続を依頼したいということになる。

【委員】

大会に関して、募集の広報をスポーツ課から行ってもらえるのか。

【事務局】

全てにおいて大会継続を依頼し、主催ではなくなるが、確認をして、できることは行う。

【委員】

スポーツをとおした青少年育成には母親の存在は欠かせない。そういう意味を含めて女性大会を廃止するのはいかがか。

【事務局】

そのような意味もあるので、大会廃止ではなく、大会継続を依頼したい。

【会長】

まちづくり財団による引き継ぎはできるか。

【委員】

まちづくり財団の事業は、初心者向けのスポーツ教室が主である。大会等はスポーツ課の事業と捉えているので、引き継ぎは難しいと考える。

【会長】

結論としては、教育委員会主催から各協会等に大会の継続を依頼し、運営を行っていたとすることで、詳細については各協会と打ち合わせを行っていただきたい。

ウ 市民総合体育大会について

○ 資料4に基づき、市民総合体育大会について説明。

【事務局】

優勝は旭北地区、準優勝は金目地区、第3位は旭南地区。

また、市民総合体育大会の視察を実施したので、御意見あれば伺いたい。

また、市民総合体育大会の種目に対する取扱基準を昨年のスポーツ推進審議会の中で作成をしたが、それに基づき、剣道が来年度、正式種目から公開種目になる可能性があったが、参加地区が今年度は18地区だったので、来年度も正式種目としての取扱になる。

【会長】

市民総合体育大会の視察について御意見、また、市民総合体育大会の運営方法等の御提言等あれば、今後もお伺いしたいので、よろしく願いしたい。

(3) その他

ア 9月市議会定例会総括質問概要について

イ 第17回アジア競技大会について

ウ 2020年東京オリンピック・パラリンピックについて

○ 資料5、6、7に基づき、9月市議会定例会総括質問概要について、第17回アジア競技大会について、2020年東京オリンピック・パラリンピックについて説明。

【事務局】

9月市議会定例会の中で、2020年東京オリンピック・パラリンピック等について質問があった。関連するので、併せて説明する。競技開催の誘致を検討しないのかという質問に対しては、設備等を考え、競技開催にふさわしい施設は平塚市にはないと理解しており、コンパクトな開催という、東京オリンピックの開催主旨にも合致しないので、競技開催の誘致は検討しないという答弁をしている。

2020年東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高める取組については、詳細が

明確になった段階で前向きに検討すると答弁している。

誘致委員会の早期立ち上げについては、神奈川県を通しての取組の進捗状や過去の誘致の実績を踏まえ、適切な時期に立ち上げたいと答弁している。

スポーツ指導者確保の具体策や育成については、現在研究段階なので、スポーツ関係団体と協議を重ねて、進めていきたいと答弁している。

自転車を活用したスポーツの推進ですが、NPO法人湘南ベルマーレスポーツクラブの主催で、「湘南バイシクル・フェス」を実施している。各関係団体と連携を深めて、推進に努めたいと答弁。また、「ツールド・HIRATSUKA」開催については、全市挙げてのイベントになるので、中期的な構想の検討も必要として、今後の提案として受け止めたいと答弁している。

また、アジア競技大会で、平塚在住の穂積絵莉さんが銅メダル、王子谷剛志さんが金メダルを獲得したことを報告する。

【会長】

2020年東京オリンピック・パラリンピックについて、キャンプ誘致に関しては、神奈川県と歩調を合わせるということか。

【事務局】

神奈川県が神奈川県下の各市町村の意見を集約しながら、キャンプ誘致を進めていく。

4 閉会